

# ミサゴ便り

平成 14 年 2 月 22 日発行

弓削野鳥の会編集発行



毎日寒い日が続いていますが、皆さんいかがお過ごしですか。

鳥たちも寒さのせいか、活動は鈍く、渡りの季節とは違い観察できる鳥の種類も限られてい

ます。それでも三山に登れば、エナガ、ヤマガラ、コゲラ、ジョウビタキ、アオジ、ホウジロ、シロハラ、ビンズイ等観察することが出来ます。しかし、いつもいつもは観察することは難しく鳥の活動時間は限られているようです。朝食の時間、夕食の時間等、可愛いエナガなどが群れとなってやってきます。



またそれと一緒にコゲラ、カワラヒワ、メジロ等一斉に食事にやってきます。その一瞬を狙ってシャッターを切ります。なかなか上手く撮れませんがエナガとビンズイをなんとかキャッチできました。出来上がるまではアオジと勘違いし

ていましたが、プリントしてみて初めてビンズイだとわかりました。こうしてみると双眼鏡だけに頼り、識別を間違えている可能性も多々あるようですね。しかし、名前がどうであれ自然の美しさ、すばらしさを感じるだけで幸せですネ。(平成 14 年 1 月)

バードウォッチングの楽しみ方

平 山 和 昭

「弘法筆を選ばず。」この格言は古くて新しい真実である。弘法大師は唐に留学した時、皇帝から「五色和尚」と賞賛されたことは有名だ。手足や口を使つての同時に五つの書体の字を書いて見せたからだと言われるが、そういうアクロバチックなことではなく、どの書



体でも素晴らしい書をモノにすることが出来たと考える方が素直で真実っぽい。豊富に文字を識り、それを駆使できれば詩歌創作の楽しみ、コレに優るものはなく、さらに

手が立てば、筆の先から生まれ来るすべてが芸術となる。あに筆の良否を問わんや・・・というところか。しかし、しかしである。いかな弘法さんでも良い筆は欲しかろう。そう思うのは凡夫のあさましさか？ 欲しいな、欲しいな、というモノがある。いわずと知れた「バードウォッチングのための道具」のことである。写真が好きな

人なら、いずれは手にしたい、使いたい、欲しい！と思うカメラがあるように、バードウォッチングにのめり込んでくると、欲しくて矢も盾もたまらない道具が現われてくる。鳥見などにさして関心がない頃には、その道具とて実用の域に達してい



ればそれでよかったのである。ところが、諸般少しく目が肥えてくると、大変他所の芝が美しく見えだすものらしい。今所持している双眼鏡、あるいはスコープは、まあ自分としては良く考えて大枚はたいて買ったものだ。これ以上はないと思っても良いくらいだと・・・信じてはいる。見え方や使い勝手に不満があるわけでもない、なの



に、より良く見えるモノがあるらしいと知るともういけない。すべて6桁の良いお値段でもあるのに。いくら望むべく最高の道具を手にしたところで、識

別できる鳥のレパトリーが両手の指くらいでは仕方ないではないか。と自分を叱る。でも聞き分けがない。困ったものである。少年の頃、好きな人のことが片時も頭を離れず悶々と過ごしたことを思い出す。高嶺の花であればあるほど恋しさは募り、その人以外には

振り向けない。時過ぎてみれば、それは楽しい思い出であり、一心に恋慕の情に溺れるのを楽しんでいたのである。何時の日にか必ず、その世界一といわれるスコープを胸に抱き、双眼鏡に頬ずりしよう。それが今の私の楽しみ方のひとつなのである、ともいえる。

## 消えたカンムリカイツブリ

松本敏和

2月のある夕刻のこと、車で家路に向かい沢津橋にさしかかった時、遙か沖合いに一羽の水鳥の影を見つけた。双眼鏡で覗き込むとしきりに潜水を繰り返し餌探しに忙しそうだ。頸が長く、前頸は白く、

後頸から背に  
で、後頭部が  
いるのでカン  
ムリと識別でき  
子供達が双眼鏡



かけて茶褐色  
やや角張って  
ムリカイツブ  
た。車中では子  
やデジカメを

探す等、『何処、何処』と大騒ぎ、波間に垣間見える小さな影を伝える言葉は『そこ、あそこ』ぐらいしか浮かんでこない。場所を指差すと、あっという間に潜ってしまうという繰り返しである。一度潜水すると、何処に浮上するかはとても予測できないくらいの距離を移動するので、私の近視の肉眼では追いきれない。そこで息子に浮上場所を指示させて、双眼鏡を覗き探す作業を何度か繰り返した後、

潜ったまま10分たっても出てこない。海上に隠れるような場所もなく、まして飛び立った形跡もない。結局、十分に観察も出来ずカメラにもおさめられずに、何時まで待っても出てこないカムリカイツブリに未練を残しながら家路に着いた。車内では溺れたのかと気遣う子供達、いやきつと恥ずかしがり屋で私たちの目の触れないようにそっと姿を隠したのだろう。今度会うときには恥ずかしがらずにもっとそばにきて欲しいものだ。また逢う日を楽しみにしよう。

(写真は深坂池のカイツブリです。)

#### 野鳥のパラダイス

#### 松永湾で水鳥観察会

1月13日(日)、久しぶりに有志で水辺の鳥の観察会と洒落込んで、松永湾に遠出してみた。正味40分ほどで松永湾に到着した。広い干潟にいろんな水鳥がたむろしている。コガモ、バン、ミサゴ、ア



オサギ、ウミウ、コサギ、ダイサギ、ユリカモメ、コチドリ等数えればきりが無いほど、干潟にはたくさんの野鳥が観察できる。野山で観察するのとはまた

違い、開けた環境にいて、大型で、また警戒心も少なくどちらかという動きがゆったりとしたものが多いので簡単に観察できる。ま

さに人間と共生している感が強い、三山で観察できる鳥等は、人目を忍んで姿をくらましている鳥が多いため、観察することは難しい。

当然食性の違いもあるが、鳥の種類によっても違いはあるが、警戒心が強い鳥と警戒心の少ない鳥がいるということは、人間と鳥との利害関係の歴史にも深い関係



があるのだろう。スズメなどは、昔は人間との生活に非常に密着した鳥だったように思える。しかし、今ではスズメはなかなか民家に近寄らなくなった。これはスズメが稲を食べる害鳥として扱われ、人間に痛めつけられてきた歴史を裏付けるものであろう。このように鳥にも人間同様に長い迫害の歴史がありますね。(写真はスズメではありません。オオジュリンです。)

弓削の野草散策

オオイヌノフグリ

弓削の道端や畑、空き地等のあちこちでよく見ると、可愛い花を咲かせている植物をご存知だろうか。ヨーロッパ原産の帰化植物、春の花だが、もうすでに私の家の周辺でたくさん見ることが出来る。花は小ぶりだが青色でよく目立つ、ただし、1日の花で、今日の花は明日にはこぼれ落ちてしまうという刹那的な花であるが、名前は

それとは反対に、フグリという男性の陰囊を指した呼び名で、人間ほどは大きくないということでイヌノフグリというとのこと。種袋

が割れると、細かい落ちる。よくみすね。また、これチイヌノフグリと



な種がたくさんこぼると確かに似ていまの兄弟によく似たタいうのがあります。

花後のタネ袋が、オオイヌノフグリが下向きなのに対し、タチイヌノフグリは上向きに付くとのこと。小さいだけに見分けるのは難しいですね。

(写真の花がオオイヌノフグリかどうかは定かではありません)

ウグイスはなぜ春に鳴く

野鳥おもしろ百科

冬とは違う気温と、春の光の変化を目でとらえると、その微妙な刺激が脳に伝えられ、脳下垂体から性腺ホルモンが血液に出され、その血液によって性腺に運ばれます。そしてここで性腺を刺激して性腺ホルモンを出させます。それで、相手のメスを呼ぶために、ウグイスはいい声でなき始めます。

(雑学おもしろ百貨・小松左京より)

### 【観察記録等の投稿のお願い】

(自然観察に関する原稿、たとえば、植物に関する原稿、海の生き物に関するもの等何でもかまいませんのでお寄せください)

連絡先：弓削野鳥の会事務局（村上尚） 77-3607まで